

ねらい

小中学校にコンピュータ等の情報教育機器を導入するとともに教員の情報教育に関する指導力を高めることで、情報活用能力を持ち、情報社会に主体的に対応していくことのできる子どもを育てる環境を整備します。

現状

○ 教育用コンピュータの整備状況

平成10年度からマルチメディアとネットワークに対応したコンピュータの導入を始め、平成14年度にすべての小中学校（62校）に児童生徒用コンピュータ40台、教師用コンピュータ1台、管理用サーバ1台、図書共有ネットワーク用コンピュータ1台を配備しています。

平成19年度には、情報モラル教育の教材ソフトウェアの更新やインターネット上の有害情報へのアクセスを防止する小学校のフィルタリングソフト更新、小中学校のウィルス対策ソフトの更新を行い、より安全で快適な情報教育が推進できるようになっています。

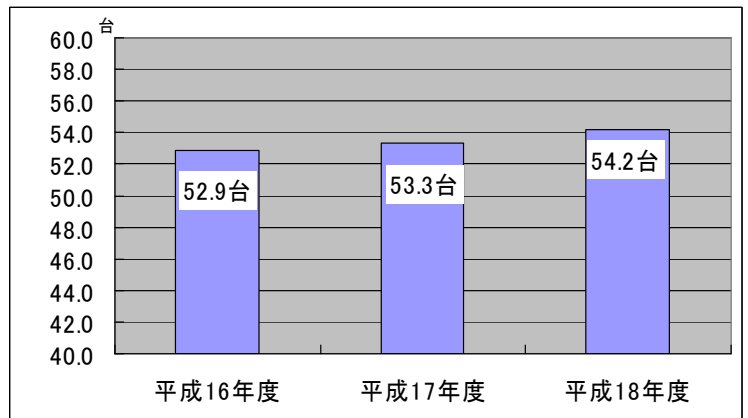
また、小中学校の職員室から閲覧できる、教育情報データベースのシステム更新を行い、授業で活用できる教材などを充実させました。

○ 学校ホームページの状況

平成12年度から学校ホームページの開設を進め、平成16年3月末に四日市市内の全小中学校がホームページを開設し、平成17年度には合併した楠小・中学校を含めて62校全校が公開しました。

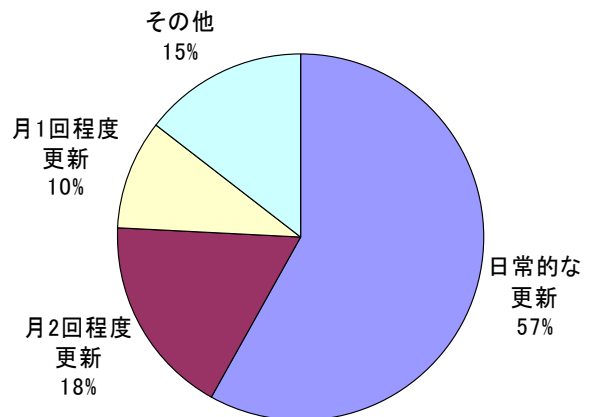
平成19年度より、日常的な情報発信を目標としています。よりタイムリーな情報発信を行い、開かれた親しみやすい学校ホームページをめざしました。

＜小中学校一校あたりのコンピュータ平均保有台数＞



（平成19年3月 文部科学省 学校における情報教育の実態等に関する調査）

＜日常的な学校ホームページの更新を行う学校の割合＞

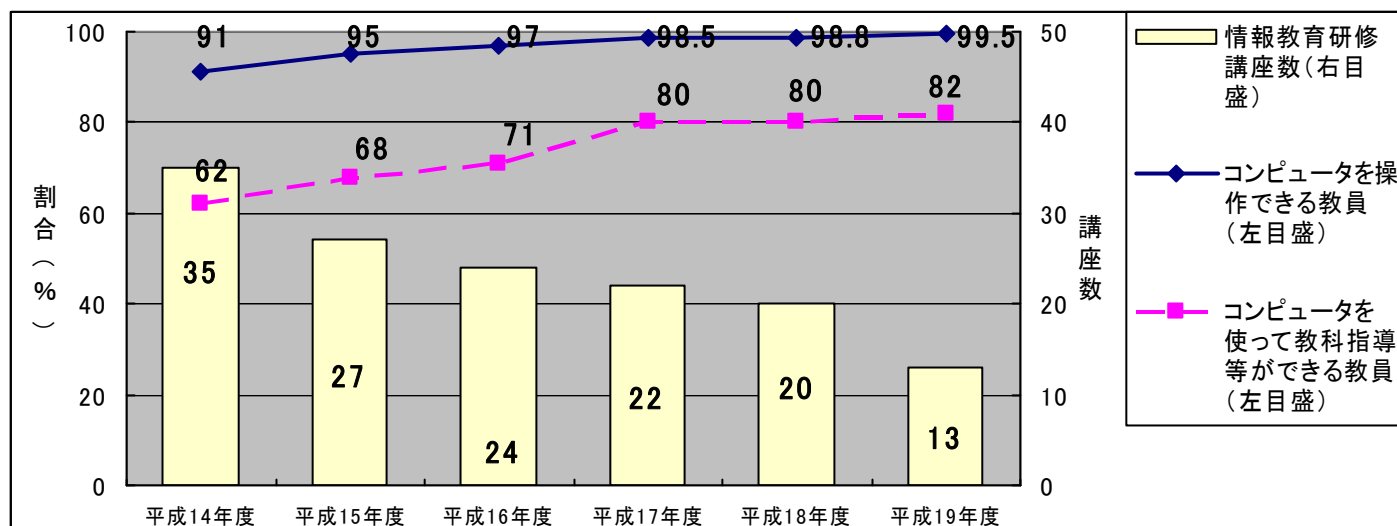


（日常的な更新＝1週間に1件以上の情報発信 平成20年3月 四日市市立教育センター調査より）

### ○ 教員のコンピュータ活用と情報教育研修講座

教員向けに、情報モラルや情報セキュリティー、授業における情報活用、学校ホームページの作成・運用などの情報教育研修講座を開設し、情報教育全般における指導力の育成を図っています。平成19年度には研修をより効果的にするため、連続講座を多く設定しました。

<情報教育研修講座数と教員のコンピュータ活用の実態の推移 >



(平成20年3月 四日市市立教育センター「平成19年度 コンピュータ活用等の実態調査」)

### 課題 (今後の方向)

- 情報教育機器の更新と校内LAN整備を含めた活用場所の拡大  
普通教室や特別教室をネットワークで結ぶなど校内LANの整備をはかり、あらゆる教育活動における情報教育機器の活用を推進する必要があります。
- 様々な教育活動における情報教育機器の活用を推進  
コンピュータ室での学習だけでなく、学力向上のため、普通教室でより効果的に情報教育機器の活用を推進していく必要があります。そのために、より実践的な情報教育研修講座や情報担当者研修を通して、様々な教育活動の場面での情報教育機器の活用能力を高めていくことが求められています。
- 学校ホームページの活性化  
より魅力ある学校ホームページとするために、さらなる内容の充実と、速やかな情報発信を行っていくことが必要です。
- 安心して学習できるネットワーク環境の整備  
インターネット上に氾濫する有害情報やコンピュータウイルス等の脅威から児童・生徒を守り、安心して学習活動に利用できるネットワーク環境の整備の継続と同時に、情報モラル教育の推進が必要です。

